

野沢温泉村への学生派遣プログラム 2015

テーマ 地域資源を活用した地域振興政策について、定住人口増加施策について

- ①地方における安定した雇用を創出する
 - ②地方への新しいひとの流れを作る
 - ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
- 4つの政策分野から1つ以上の分野を選び、野沢温泉村にあった具体的な事業等を提案。

東京・明治大学での事前学習

派遣学生への事前説明会及びグループワーク（6月12日）

今年度のプログラムに参加する学生が初めて一堂に会しての第1回目のガイダンスです。当日は、野沢温泉村から担当職員をお招きしており、今年度の課題である「地方創生」について、野沢温泉村の取り組みや、今後の方針等についてや、野沢温泉村の特長・課題点等についてのレクチャーを受けました。

レクチャー終了後には、学生たちはグループワークを開始。6月下旬に控える事前調査に向け、興味を持ったことや現地で確認すべきことについて賑やかに意見を交わしました。

事前調査

6月27日及び28日、野沢温泉村での事前調査を実施しました。この1泊2日での「事前調査」は、野沢温泉村が抱える課題や資源等について現地を訪れることで体感し、新たな発見を得ることを目的としています。

村役場職員および村内視察との打合せ（6月27日）

明治大学駿河台キャンパスからバスにて野沢温泉村に到着した一行は、まずは村役場に到着。早速、富井村長をはじめ、滞在中にお世話になる総務課の方々や、若手職員の方々に自己紹介を行いました。その後は3班に分かれて、事前調査でどのような場所を見たいかなどを話し合いました。班ごとに村内中心部を徒歩で歩きながら、外湯の利用状況や、村民の方々へのインタビューも行っていました。



村内視察（6月28日）

この日は、朝から野沢温泉村が用意したバスにて、野沢温泉村各所を回りました。現地を訪れた6月には野沢温泉スキー場のリフトは停止していましたが、8月や冬の間には多くの方が訪れて、スポーツを楽しむ方々で一杯になるそうです。温泉街からバスで30分。標高1650mの毛無山の山麓に広がる上ノ平高原にはブナの原生林が密生し、スタカ湖にはキャンプ場もあり、豊かな自然と親しめます。上ノ平高原から降りる途中には、「日本の夕陽百選」に指定されている見晴台もありました。

温泉街近くまで下りてくると、日本のスキーの歴史を分かりやすく展示した「日本スキー博物館」をはじめ、露天風呂や屋外プールなどもある「野沢温泉スパリーナ」を見学しました。村役場に帰庁後、野沢温泉村若手職員がアドバイザーとしてサポートに入り、今後のグループワーク等の進め方について相談しました。

事前調査での発見を踏まえ、学生たちは野沢温泉村に対する政策提言の考案を開始します。9月上旬には再度、野沢温泉村を訪問し、現地の人々へのインタビューを行う調査活動を行います。



東京・明治大学での研修

事前研修「地域活性化について」(7月3日)

学生派遣プログラムでは、現地の自治体職員、地場産業に携わる人々など地域住民との交流・調査・取材を通し「地域活性化への提言」を行います。今回は、課題が「地方創生」であったことから、木村乃商学部特任准教授に地方創生、地域活性化について講義して頂くことになりました。

木村乃商学部特任准教授は、商学部特別テーマ実践科目において「地域の元気をプロデュース」をテーマとした講座のコーディネータを務められており、「ヨソ者」である学生たちに期待されていることなどをお話し頂きました。事前準備の大切さ、現地調査で行うこと、地域が抱える問題の本質など、限られた期間の中でいかにして有意義な活動が出来るかについて考える内容の講義でした。

講義を受けたあとに行われたグループワークにおいても、各班とも活発な議論が交わされ、課題に対してのアプローチ方法を木村先生に相談する班もありました。



事前研修「ファシリテーション研修」(8月3日)

源由理子グローバル・ガバナンス研究科教授が講師として実施した*ファシリテーション研修では、8月上旬から始まるフィールドワークに向け、議論の進め方やコミュニケーションの取り方などについて、ワークショップを交えて学びました。

*「ファシリテーション」とは、ものごとが円滑に進行するよう促す行為・技術・方法。会議等のマネジメント技法として用いられる。

現地調査

9月1日～4日、野沢温泉村への学生派遣プログラム現地調査を実施しました。この3泊4日での「現地調査」は、6月下旬に行った事前調査や東京でのグループワークを経て発見した野沢温泉村の抱える課題について、現地での調査活動を行い、政策提言内容を深化・充実させるために実施します。

村内視察 (9月1日)

この日も、明治大学を出発し、バスで野沢温泉村へ到着しました。6月下旬の訪問から約2か月の間に、班ごとに相談をした内容について、村役場の若手職員の方と打合せ、これから3日間の現地日程を詳細につめていきます。その後、株式会社野沢温泉の営業担当・高澤さんや、民宿経営者の笹岡さんから、野沢温泉への移住について、詳しくお話を伺うことが出来ました。



現地での取材及びグループワーク (9月2日・3日)

2日目・3日目はグループ毎に分かれての調査活動です。それぞれが考案しようとする政策提言に則し、学生たちは若手職員のみなさんの協力も得ながら、お店や村役場、民宿、保育園などを訪問し、関係者への取材をおこないました。宿舎では連日深夜までグループワークが続きました。



中間報告会 (9月4日)

中間報告会の会場となる野沢温泉村役場にて、富井村長ほか20名以上の野沢温泉村職員のご出席のもと、学生たちは考案した野沢温泉村に対する政策提言を発表しました。発表後には、富井村長から更なる政策提言の磨き上げへの期待を込めた叱咤激励をいただき、学生たちは成果報告会に向けて一層の気合が入りました。



成果報告会

野沢温泉村での最終成果報告会（10月27日）

9月上旬の現地調査から約1ヶ月の期間をかけ、学生たちは政策提言内容の向上に取り組んできました。その成果を、各グループごとに富井村長や、お世話になった担当職員のみなさんの前で発表しました。6月に始まったプログラムの集大成となる発表を受け、富井村長や担当職員の皆さまから学生への感謝のお言葉を賜りました。



富井俊雄村長をはじめ野沢温泉村職員のみなさん、取材に快く応じてくださったみなさん、ご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございました！